



ベルルスコーニの時代

岩波書店 村上 信一郎著

160781175 安田 陸

第1章 シルヴィオ・ベルルスコーニの生い立ち

a) 激動の時代での生誕

1936年9月29日ミラノで誕生

同年5月9日ムッソリーニが帝国の成立を宣言の時期

b) 彼の学生時代

ア) 1948年修道会の全寮制中等高等学校に入学

名門校でも彼は常に成績上位

しかし、彼の欠点は信仰心が一向に不足

原因：彼の経済的な余裕の欠如

イ)1956年ミラノ大学(国立大学)法学部に入学
大学3年で不動産建設関係の会社に勤務
広告代理店マンゾーニ募集の卒論コンクールに募集
結果：一等賞で200万リラ獲得
→この頃から自分の将来を明確に暗示
また、当時(1961年)の大学卒業者は1,3%
(小学校卒業ですら42,3%)
→稀有な社会的上昇のパスポートを取得

第2章 建設業の寵児への道

a) 「経済の奇跡」到来

1958~63年の戦後の高度経済成長期のこと

ア)GDPの平均成長率は6,3%

イ)ミラノの工業地帯では完全雇用に近い状態

→各地の農村から都会に殺到(人口集中)

結果：不動産ブーム、建設ラッシュ



b) ベルルスコーニの実施事業

ア) 卒業後(1962年)にミラノ合同工務店を設立

目的：新興住宅地域に4棟のアパートの建設

イ) 翌年、合資会社エディルノルド社を設立

目的：ブルゲーリオに複合住宅地の建設

問題点：ブーム下り坂、立地が悪い



広告代理店マンゾーニの社長を説得

結果：広告は効果覿面



ウ)1970年、ミラノ・ドウエに着手

目的：セグラータ市に1万人規模の複合住宅地の建設

しかし、この事業にはいくつかの難題が存在

i) 周辺都市間の調整が必要として県議会から反対

ii) 敷地の上空が近くのリテーナ空港の航路



1970年に憲法規定の州制度が発足

→2年後に州から許認可権を獲得

地元住民の請願運動、病院建設を理由

→運輸大臣から航路の変更成功

エ) ミラノ・ドウエの敷地内

65万平方メートルの広大な敷地

ショッピングモール、ジム、プール、ホテルも完備

教会、会議場、6つの学校まで確立

歩道、自転車道、自動車道は完全に分離

自動車は全て地下駐車場に収容

正面ゲートには、ガードマンを常駐

→ ミラノ・ドウエは未来志向で画期的な計画

第3章 メディア業界への進出

a) テレミラノの開設

1973年、ケーブルテレビ局として始動

1978年、正式の放送局に格上げ

1979年、株式会社フィンヴェストを設立

→建設業とメディア業の事業管理を一本化

同年、番組制作会社レーテ・イタリアを設立

広告代理店プブリタリアを設立

→本格的にテレビ業界の進出を開始

b)ベルルスコーニのテレビの強み

ア)米の映画等を購入→録画後、地方テレビ局に販売
→予め録画ビデオにスポット広告を挿入

結果：莫大な広告料を獲得

イ)録画ビデオを前日までに全国の放送局に送達
→その翌日に「同時」に放送

結果：テレミラノが「全国放送」という錯覚を感受

c) 行き過ぎた行為

フィンンベスト社の放送部門「メディアセット」

→ 地方放送局を次々と支配

結果：独自の全国放送ネットワークを確立



イタリア共和国憲法への明確な違反行為

結果：1984年10月16日に裁判所が全国放送停止命令

d)ベルルスコーニとクラクシとの関係

1979年、ベルルスコーニがマンゾーニ劇場を購入

→その劇場の女優ベロニカと恋愛

1984年、極秘裏にスイスで2人の最初の子供を出産

→子供の洗礼の立会人かつ名付け親がクラクシ

1985年、最初の妻と協議離婚

1990年、ベルルスコーニとベロニカは正式に結婚

→両方の立会人もクラクシ夫妻

e) イタリアのメディア王

同年10月20日ベッティーノ・クラクシ首相の働きかけ

→民放として初の全国放送を許可

結果：メディア方面での事業も磐石



「イタリアのメディア王」と呼称

f) 結論

ベルルスコーニは問題が山積

しかし、彼の生き方(例：若い時からの類稀な行動力)

→ 事業家、政治家として高評価